

7 学識経験者からの助言と対応

(1) 学識経験者からの助言と対応

本業務では、平成 29 年度及び平成 30 年度、学識経験者からなる委員会を設置して、本業務の測定結果、得られたデータに対する統計解析、暑熱環境の予測手法などについて必要な助言を受けてきた。

本年度は、昨年度までの暑熱環境測定に係わる調査等は終了したので、検討委員会は設置せず、委員会でのこれまでの助言などをふまえて実施してきた暑熱環境測定の実施状況等について、前年度までの委員会を構成していただいた学識経験者に報告して、助言等を求めた。

助言を求めた学識経験者は以下の 7 名

足永 靖信	建築研究所環境研究グループ長
石丸 泰	環境情報科学センター調査研究室長
小野 雅司	国立環境研究所環境リスク・健康研究センター
日下 博幸	筑波大学計算科学研究センター教授
齋藤 宏之	労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所上席研究員
澤田 晋一	東京福祉大学・大学院教育学部教授
堀越 哲美	愛知産業大学学長

このうち、石丸、小野、日下、齋藤各氏には、令和 2 年 1 月 24 日に気象業務支援センター会議室にお集まりいただき、資料を用いて説明を行った。また、残りの 3 氏には資料を送付した。

説明を行った資料の構成としては

- 1 令和元年度の暑熱環境測定の結果について
- 2 2020 年度の情報提供に向けた準備状況について
- 3 携帯型測定機器による日なた・日陰の測定結果の活用方策について
- 4 2020 年度の暑熱環境測定について

学識経験者からは

- ・令和元年度の暑熱環境測定の実施方法、結果については概ね妥当である。
- ・携帯型の精度評価、標準型との比較での補正についても妥当である。携帯型の黒球温度の補正については、黒球の直径に応じた補正式が ISO で提示されているので、その比較を行って確認をすべきとの助言があった。

- ・標準型での測定結果について、1時間値の最大値や、1分値のWBGT 閾値ごとの分布状況の解析については、測定地区の暑熱リスクの把握に有効であるとの評価があった。
- ・携帯型を用いて測定した結果から、2020年度の情報提供に当たって、日陰、日なた、コンクリ、草地などの条件に応じて、標準型のデータに対する補正値を提供することについても異論はなかった。
- ・標準機測定地点に対する予測情報の提供のための予測プログラムの開発状況についても異論はなかった。
- ・2020年度のオリンピックパラリンピック期間での暑熱環境測定計画についても異論はなかった。

以上、説明資料について特段問題があるとの指摘は無かった。

指摘のあった、携帯型の黒球温度の測定について、資料に沿って検証した結果、今回の測定結果が指摘の通り、黒球のサイズで概ね説明可能であることが確認できた。詳しくは5章5節に掲載した。